

第4次一般廃棄物処理基本計画(素案)に関する意見募集の結果について

平成29年(2017年)11月20日～12月11日に実施した意見公募手続の結果は以下のとおりです。

(1) 集計結果

(1) 提出方法別提出人数と意見件数

	提出方法	提出人数(人)	意見件数(件)
1	郵便	1	6
2	ファクシミリ		
3	電子メール	1	9
4	所管課への直接提出	3	6
5	その他	17	30
	合計	22	51

(2) 市民等の区分別人数

	市民等	提出人数(人)	意見件数(件)
ア	市の区域内に住所を有する者	12	36
イ	市の区域内に事務所等を有する個人及び法人等	4	8
ウ	市の区域内に存する事務所等に勤務する者	6	7
エ	市の区域内に存する学校に在学する者		
オ	市税の納税義務者		
カ	意見公募手続に係る計画等に利害関係を有するもの		
	合計	22	51

(2) 提出意見の概要と市の考え方

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
1	はじめに 7行目	「ごみの量は平成 26 年度（2014 年度）までは順調に減少しましたが、近年は人口微増の影響もあり～」を、「ごみの量は平成 26 年度（2014 年度）までは順調に減少を続けましたが、近年は大規模住宅の建替え等による人口増加の影響もあり、ごみの量は増加傾向にあります。」のように、人口増加の要因も記載してはいかがでしょうか。	ご意見のとおり修正いたします。
2	第 1 部 第 1 章 1 ページ 31 行目	大阪湾広域臨海環境整備センターの埋め立て可能期間等の逼迫した状況をより具体的に示すことで、市民レベルでごみ減量意識を高めることができると思います。	埋立地の延命化について、具体的な説明が不足していますので、1 ページ、32 行目の「安定的な最終処分場を確保するため、」を「現行期の最終処分場の供用が終了するまでの間、」として修正させていただきます。
3	第 1 部 第 1 章 2 ページ 4 行目	発生抑制、再使用という言葉よりリデュース、リユースのほうが言葉として浸透しているので表現は変えた方が分かりやすいと感じます。	全ての方に分かりやすい表現として、漢字で記載しておりますので、現行の表現とさせていただきます。
4	第 1 部 第 1 章 2 ページ 4 行目	27P の 21 行目ではリデュース（発生抑制）、リユース（再使用）となっているので、2R、3R を使うときはカタカナ表記が浸透してきているのでカタカナ表記が良いのではないですか。	全ての方に分かりやすい表現として、漢字で記載しておりますので、現行の表現とさせていただきます。
5	第 1 部 第 2 章 7 ページ 図 2-2	地図上に方位マーク（東西南北地図記号）を記載するほうが良いと思います。	ご意見のとおり修正いたします。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
6	第1部 第1章 8ページ 表2-2	表2-2 市区町村の表記を総ごみ排出量の少ない順で並び替えることで、大阪府下における豊中市の位置づけがより明確となります。	表2-2、表2-4については、豊中市を一番上に配置して、その下からは、市町村のコード順にて表記していましたが、ご指摘のとおり、本文で説明している量の順番で並び替えて修正させていただきます。また、あわせて、表2-3も同様に修正させていただきます。
7	第1部 第1章 10ページ 表2-4	表2-4 市区町村の表記を焼却処分量の少ない順で並び替えることで、大阪府下における豊中市の位置づけがより明確となります。	表2-2、表2-4については、豊中市を一番上に配置して、その下からは、市町村のコード順にて表記していましたが、ご指摘のとおり、本文で説明している量の順番で並び替えて修正させていただきます。また、あわせて、表2-3も同様に修正させていただきます。
8	第1部 第1章 14ページ 図2-4	この図の不燃ごみに「事業系1,392t」とあります。このままでは、市の施設で産廃を処理していると思われる。注釈をいれたほうが良いと思います。	14ページ16行目にある「不燃ごみ」の「事業系」を「自己搬入分等」に修正し、図の下部に記載している注意書きに「4) 不燃ごみの内訳にある自己搬入分等とは、家庭から排出される引っ越し等に伴う臨時の不燃ごみ等を許可業者が収集したものや市民がクリーンランドに直接搬入したものです。」と追記させていただきます。
9	第1部 第1章 15ページ 図2-7	他の「図」「表」と整合を図り、年度のH(平成)があるほうが良いのではないかと。	全体にわたり「図」や「表」にある年度の表現を「昭和」「平成」に修正いたします。
10	第1部 第1章 21ページ 16行目	21ページ16行目の(出典:「平成24年度豊中市家庭ごみ排出実態調査業務報告書」)の家庭系ごみの「系」は記載しなくてよいのですか。	平成24年度に実施した実態調査業務委託の名称が、「平成24年度家庭ごみ排出実態調査」となっているため、原文の表記とさせていただきます。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
11	第1部 第1章 21ページ 図2-8	横軸の表現が分かりにくいので、注意書きを「注) 過去に横軸に示したごみについて排出調査等による」とされてはどうか。 また、平成27年度の「発生抑制可能な割合」は「発生抑制で可能な割合」に修正してはどうか。	図2-8については、横軸の年表の表現を統一し、出典元を「出典：「平成24年度豊中市家庭ごみ排出実態調査業務報告書」として、表中のデータを修正させていただきます。
12	第1部 第1章 23ページ 2行目	事業系ごみの発生抑制を図るための具体的な方法として「売れ残り食品を減らすための販売管理の徹底等」とあるので、「不適正排出に対する是正等」についても、具体的な手法を一部紹介してもよいのではないのでしょうか。	事業系ごみの「不適正排出に対する是正等」につきましては、「搬入物調査の拡充による不適正排出に対する是正等」という、具体的な文言を一部追加させていただきます。
13	第1部 第2章 24ページ	平成24年(2013年)4月以降、事業ごみの指定袋廃止にともない、市での収集はなくなり、事業系一般廃棄物の処理は許可業者に委託か自己搬入のみとなっていると思います。 廃掃法では「事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理すること」となっていますが、市町村によっては、少量であれば、家庭ごみとして出してもよいところもあります。 豊中市では事業系一般廃棄物は許可業者に委託するか、自己搬入のみというところを明記すべきだとも思います。	24ページ(5)ごみ収集・処理の現状1)ごみ収集体制、13行目に「一方で、事業系ごみの収集については、事業系一般廃棄物の許可業者に委託するか、事業者が直接クリーンランドに自己搬入を行っています。」を追記いたします。あわせて、表2-11「ごみ種別の収集担当」を「家庭系ごみ種別ごとの収集の分担」と修正させていただきます。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
14	第1部 第2章 27ページ 15行目	平成28年度時点でごみ処理総額は約50億円、市民一人あたり12,640円とのことですが、大阪湾フェニックスセンターでは、ごみ量抑制や新たな処分地確保等のために、埋立処理費用の値上げ等も検討していると思います。今後ごみ処理費用が増えるおそれがあることに言及し、更なるごみ量抑制への動機づけを促す内容についてもふれてはどうかと思います。	27ページ16行目「1人あたりのごみ処理費用は、12,640円になっています。」を「1人あたりのごみ処理費用は、12,640円になっていますが、このままごみ排出量が変わらないと仮定すれば、今後、埋立処分費用の増額も見込まれることから、更にコスト増となります。」に修正いたします。
15	第1部 第2章 28ページ 図2-13	図2-13は27ページ下部に余白があるので、こちらで表記したほうがよい。	ご意見のとおり修正いたします。
16	第1部 第2章 28ページ 4、6、7、 12行目	目標値については「約」を削除するほうがよい。	現行の計画と合わせた表現となっていますので、29ページ6行目「約17g」は「17g」に修正させていただきます。
17	第1部 第2章 28ページ 11行目	「減量目標の達成状況」について、11行目「個別の数値目標の達成状況について、」市民1人1日当たりの家庭系ごみ排出量は、平成28年度（2016年度）時点で約550gで、目標である約567gを既に達成しています。」とありますが、家庭系ごみ原単位の算出時の人口を極端に低く予測しているため、全文を削除してほかの文言に言い換えてはいかがでしょうか。 「家庭系ごみ総量」を決定づける要因は「人口」であるため、最初に「総量」を押さえると、人口が増加すると当然「原単位」は小さくなるため、目標を達成しているとは言えないと考えます。	第3次一般廃棄物処理基本計画では、市民1人1日当たりの排出量を減らしつつ、将来の推計人口を想定し、人口も減っていくことを見込んだ上で「ごみ総量」の目標値を設定したものであるため、原文のままさせていただきます。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
18	第1部 第2章 29ページ 23行目	30ページ23行目の「図2-13参照」は「図2-14参照」の間違いではないでしょうか。	ご意見のとおり修正いたします。
19	第1部 第2章 29ページ 26行目	最終処分場の現段階の計画（H40年3月）期間は記載しないのでしょうか。	27ページ7行目に計画期間を掲載しているため、原文のままとさせていただきます。
20	第1部 第2章 30ページ 図2-14	図2-14 右軸上部に単位が抜けているので（人口 千人）を挿入してはどうでしょうか。	図2-14の右軸上部に「(千人)」を追記いたします。
21	第1部 第2章 30ページ 24行目	「実施できなくなる可能性も考えられます。」とありますが「できなくなる」というのは、極端な表現となっています。また、実施するのは市民だと認識されての表現だと思いますので、「実施が困難になることも危惧されます。」と修正されてはいかがでしょうか。	ご意見のとおり修正いたします。
22	第1部 第2章 31ページ 8行目	「市民の努力とともに、ライフスタイルに取り入れることができるようなサービスを」ですが、例示の一つ目は事業者が導入するものではないと思われます。また、「努力」というのは「市民の協力の下に」と修正されてはいかがでしょうか。	32ページ8行目「市民の努力とともに、」は「市民の理解と協力を得るとともに、」に修正いたします。 32ページ11行目の例示の一つ目ですが、「商品などを購入する際は包装を断る」を「市民は、商品などを購入する際に包装を断る」に修正いたします。
23	第1部 第4章 41ページ 図4-4	「府内自治体の内、焼却処理量の少ない上位水準の量を下回る量(95 t)」と出てきますがこれは「府内自治体の内、一人当たりの焼却処理量の少ない上位水準の量を下回る量(95 t)」ではないでしょうか。	図4-4の焼却処理量は一人当たりではなく、総量となっていますが、表現が分かりにくいので、「府内自治体の内、焼却処理量が少ない上位水準の量を下回る量(95千t)」を「府内自治体の焼却処理量が少ない上位水準の量」に修正いたします。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
24	第1部 第4章 41、42 ページ 図4-5、4-6 4-7	表題の中に「個々の目標」とありますが、図4-3で使われている「個別の目標」と合わせてはいかがでしょうか。	ご意見のとおり修正いたします。
25	第1部 第4章 43 ページ 表4-1 20、21 行目	資源化量「市関与分合計 ⑦=⑥+⑩+⑫」の「⑦」は「⑬」に、資源化率についても「⑦÷③」ではなく「⑬÷③」ではないでしょうか。	表4-1に記載している番号(⑦⑬など)に誤りがありますので、精査して番号を振りなおして修正いたします。
26	第1部 第4章 43 ページ 表4-1	「表4-1 計画期間の節目における基礎的数値」について「表4-1」と「資料2」の人口があっていないため整合が必要です。 また、表4-1の「削減率」について、「削減率」を生かすのであれば、たとえば(最終行)0%、▲1%、▲4%、▲8%としてはどうでしょうか。	人口の数値については、資料2と他の図等で使われている数値の整合性を図るよう修正させていただきます。 また、削減率の標記についても、ご指摘のとおり修正させていただきます。
27	第1部 第5章 45 ページ 2 行目	2R(発生抑制.再使用)はリデュース、リユースのほうが浸透してきているのではないのでしょうか。	全ての方に分かりやすい表現として、漢字で記載しておりますので、現行の表現とさせていただきます。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
28	第1部 第5章 45ページ 12行目 21行目	<p>「環境学習・教育の充実」について、具体的な取り組みとして、豊中市立小学校4年生の「出前授業」とクリーンランドでの「環境学習」を記載してはどうでしょうか。</p> <p>「食品ロス・ゼロに向けた取組み」ですが、「食品ロス・ゼロ」は、「食品ロスの削減に向けた取組み」としてはいかがでしょうか。また、「3切り運動」として「使い切り」、「食べきり」、「水切り」を入れたらどうでしょうか。</p>	<p>45ページ16行目「小中学校等における環境教育の充実を図ります。」を「小学校4年生を対象とした環境学習を実施するなど、様々な環境教育の充実を図ります。」に修正いたします。</p> <p>45ページ21行目「食品ロス・ゼロに向けた取組み」は、「食品ロスの削減に向けた取組み」に修正いたします。</p> <p>「3切り運動」につきましては、「(1) 市民・事業者・行政の協働による循環型社会の構築」ではなく、46ページ、17行目(2) 家庭系ごみ減量等に関する取組み、【取組み方針】○2R(発生抑制・再使用)の推進の「ごみ収集時のコスト削減等の効果も見込まれる生ごみの水切りなど、」を「ごみ収集時のコスト削減等の効果も見込まれる生ごみの水切りを含めた、「3切り運動(使い切り、食べきり、水切り)」を推進し、」に修正いたします。</p>
29	第1部 第5章 50ページ 2行目	環境に配慮した収集機材を拡充するとありますが、具体的にどの様な機材ですか？	50ページ2行目「環境に配慮した収集機材等の割合の拡大を図ります。」を「環境に配慮した収集運搬車両等の割合の拡大を図ります。」に修正いたします。
30	第1部 第5章 51ページ	51ページ9行目【取組み方針】に「○幼少期からの環境美化学習」の見出しを追記し、本文に「幼少期から、まちの清掃活動等に参加することにより、美しいまちづくりの意識を醸成し、大人になってもまちの美化を常に意識できる環境美化学習を実施します。」を追記してはどうでしょうか。	ご意見のとおり 追記 いたします。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
31	第1部 第5章 52ページ 23行目	災害時には、処理施設（処理能力）の確保が課題となります。取組み方針の一つに「周辺自治体との連携」を掲げ、周辺自治体の平常時の余剰処理能力に関する情報共有等を進めながら、災害時に速やかに連絡・調整を行い、相互にサポートできる仕組み作りを構築することや、また、そうした制度の運用に関する国・府への働きかけも進めていくことへの言及もしてはどうかと思います。	災害廃棄物の処理についての詳細は、今後、策定する予定の「災害廃棄物処理計画」に記載することとしています。
32	第2部 第1章 56ページ 図1-3	グラフ上でS（昭和）の60年度と61年度が近くて見にくい。	グラフの年号を上下に配置するなど調整し修正いたします。
33	資料編 資料2 72～81ページ	「資料2」について人口について、「各年.10.1 現在」なのか「各年.3.31 現在」（実際は4.1 現在）なのか表示したほうがよいと思います。 また、「人口欄」は72・73ページだけではなく、74ページから84ページまで記載した方がよいと思います。表の各行に「番号」を付けていただきたい。 「実績欄」の「H28 2017」を「H28 2016」に修正が必要と思います。	人口推計については、平成27年10月1日現在の国勢調査の確定値を元に、平成28年度末の移動率、平成29年9月から過去直近5年間平均の出生率などを勘案して算出しております。 人口欄については、74ページから84ページにも記載いたします。 表の番号については、各行に挿入させていただきます。 実績の年号については、ご指摘のとおり修正いたします。
34	全体	グラフの数値差が分かりにくい。例えば、41ページ図4-4の「H29、103千トン」「H30、103千トの棒グラフが同じ数値にもかかわらず棒グラフに差が出ている。このような場合は、小数点を用いて差が分かるようにした方がよいと思います。	図や表の数値については、表現が分かりやすくなるよう、小数点を付けることや横並びになっている物については、年度ごとに数値が読み込めるように上下に配置するなど調整し修正いたします。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
35	全体	素案全体の黒塗り部分が濃いので、数値や文字が読み取りにくい。例えば、74 ページは見にくいですが、76 ページは見やすい。	ご意見を踏まえて調整いたします。
36	全体	「協働とパートナーシップ」について、「協働」と「パートナーシップ」は同じ意味ととれるため「とパートナーシップ」を全て削除してはどうか。	「協働」は「市民・事業者及び市が地域課題の解決に向けた"取組み"・"アクション"」、「パートナーシップ」は「その相互の信頼関係、関係性」という意で使用しているため原文のままとさせていただきます。

○その他意見等

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
1	第1部 第1章 1 ページ 28 行目	人口の微増により、クリーンランドの処理能力を超える恐れから、減量推進を促しているように読み取れてしまいます。 処理能力は側面的には、減量推進の要素であるものの、逆説的には処理能力に余剰があるので、廃棄物の増加を推進するのか、ということとなり、本計画の理念が劣化することが懸念されます。	ごみ減量の必要性については、「使い捨て」の社会・経済システムに別れを告げ、地球からいただいた大切な資源を上手に使う「循環型社会」を形成する上でも重要であります。そうした広域的な視点とあわせて、本市の廃棄物行政の現状を知っていただくことにより、より一層、ごみ減量に取り組む必要性について思索する契機になるものと考えています。
2	第1部 第2章 12 ページ 9 行目 13 行目	使用済小型家電と水銀使用廃製品の回収拠点をもっと周知を進めて拠点も増やした方がいい。	使用済小型家電や水銀使用廃製品の拠点については、民間事業者の協力も得ながら増加に向けて引き続き取り組んでまいります。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
3	第1部 第2章 21ページ	<p>家庭系ごみについては、郊外大型店舗で食料品を買い溜める家庭と定期宅配で食料品を購入する家庭が増加している点に注目すべきである。</p> <p>両方に顕著な事象としては、賞味期限切れなどによる未使用処分である。</p> <p>社会情勢から、近所の店舗が喪失し、必要の都度購入する仕組みから一定期間分をまとめて購入する仕組みに変遷しており、その結果、廃棄物が増加していることの対策を検討すべきである。</p>	<p>家庭系ごみの可燃ごみの組成分析を見ますと、ご指摘のとおり、賞味期限切れなどの食品ロスが多く見受けられます。</p> <p>本計画において、食品ロスの発生抑制を重要視しており、第4次ごみ減量計画で具体的な施策として、「3切り運動（使い切り、食べきり、水切り）」を推進するなど、取組みを検討していきます。</p>
4	第1部 第2章 23ページ	<p>事業系ごみについては、分別の徹底を呼び掛ける必要があります。</p> <p>とりわけ、事業所を利用し、その場で排出されるごみを分別してもらうための呼びかけが必要です。</p> <p>また、事業者にメリットを付与することで、ごみの減量が可能であると考えます。</p>	<p>事業系ごみの減量については、業種別にごみ減量を呼び掛ける「(仮称)業種別ごみ減量マニュアル」を作成するなど、事業者に対し、きめ細やかな支援を検討するとともに、ごみ減量が経営コストの削減にもつながることを引き続き周知していきます。</p>
5	第1部 第2章 24ページ 3行目	<p>ごみ収集業務を一部民間委託することで得られた具体的なメリットはどんなことがありますか。</p>	<p>ごみ収集運搬業務を委託したことによる具体的なメリットですが、市内全域をごみ種別に公・民が分担して収集を行うことで、効率的・効果的なごみ収集運搬体制を構築することができるのと同時に、災害時等における市民の生活環境保全等に係るセーフティネットの体制の確保が図れるものです。</p>
6	第1部 第2章 32ページ	<p>家庭系ごみを減量するために、手つかず廃棄や食べ残しの食品を削減することが課題であることがよくわかりました。食べ物を大切にすることを市民・事業者・行政が協働で進めることが重要と考えます。</p>	<p>食品廃棄物（食品ロス）については、家庭系ごみ及び事業系ごみに共通した課題となっており、本計画の施策を検討する上でも重要視しております。今後も、フードドライブをはじめ、食品ロスの削減に向けてさまざまな取組みを進めていきたいと考えています。</p>

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
7	第1部 第2章 32ページ 23行目	フードドライブの実践を掲げておられますが、フードドライブで扱われる食品は、かなり制限があって、ごみ分別調査での食品ロスはほとんど該当品ではないのではと考えます。ごみと云うよりも福祉活動(例えば、子ども食堂)という観点からの取組みも必要かと考えます	フードドライブの対象食品については、配給先への分配時間等も考慮してルール化しています。 また、この取組みは、ごみ減量の観点だけではなく、「こどもの孤食を無くす取組み」「生活困窮者への支援」に対応すべく、豊中市社会福祉協議会と連携し進めています。
8	第1部 第5章 46ページ 28行目	多様な資源回収方法の提供について、記載されているとおり検討を進めていただければと思います。現状として、自治会を形成していない地区等もあることから、たとえばガラスビンの回収について、戸別回収や持ち込み拠点の設置等の検討が、今後必要になるのではないかと考えられます。	多様な回収方法については、市民のライフスタイルに応じた回収拠点や戸別の回収方法などを検討していきたいと考えています。
9	第1部 第5章 46ページ 32行目	記載されているとおり、広報周知活動の充実について、進めていただきたいと思います。分別冊子を全戸配布していただいておりますが、冊子には書ききれないこともあると思いますので、出前講座等で出された質問やその回答について、ごみ減量通信やホームページ等で教えてもらえればと思います。	出前講座で出された質問等につきましては、集約し市ホームページに掲載しています。また、「2020 ごみ減量通信」やSNS等を通じて、わかりやすい広報を心がけます。
10	第1部 第5章 50ページ 4行目	クリーンランドの処理量の3分の1以上は、伊丹市分です。一人当たりごみ量でも伊丹市の方が多いようなので、強気に連携して行くことが望まれます。	豊中市伊丹市クリーンランド、伊丹市とは、会議等を通じて計画の策定やごみの減量について調整・検討しています。今後も両市が連携して、取り組んでまいります。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
11	全体	より良い計画を策定しても、策定して終了では全く意味がありません。減量目標やそれに向けた取組みなど、どのように具現化していくかが重要だと思います。豊中市民の排出量は22市の中で最も少ないということですが、一方で事業系ごみが12位となっています。事業系ごみの食品ロスが非常にもったいないと思いますので、事業者への周知徹底や、指導を行い、事業系ごみも豊中市が1位となるよう、また平成39年度時点のごみ焼却処理量が、平成28年度実績に比べて8%削減出来るよう、PDCAのサイクルをしっかりと行ってください。	事業系ごみの削減については、クリーンランドと協働し「搬入物調査」を拡充するなど、適正排出を収集運搬業者や排出業者に促します。 進行管理につきましては、第4次一般廃棄物処理基本計画のアクションプランである第4次ごみ減量計画を基に進行管理を行い、市民や事業者などにごみの量の現状や施策の取組み方、進捗状況などを、周知していきたいと考えています。
12	全体	計画の中で、前回の計画時においてはごみの減量目標が達成されていると記載していますが、クリーンランドでは、余裕を持って処理することが困難だとも記載されています。その原因が人口の増で、現行基本計画策定時に想定した人口よりも3万6千人増えているということですが、資料2の「目標値と計画収集量」の中で、人口の推移が、平成28年度396,014人に対して、中間目標年度の平成34年度では399,267人となっており、その差は3,000人程度です。本文中にも要所で人口が微増傾向にあると記載しているにも関わらず、3,000人程度の増では見込み的にはあまくないでしょうか。	想定人口については、近年の合計特殊出生率と純移動率を維持することを前提に推計しています。 (参考) 合計特殊出生率：人口統計上の指標で15歳から49歳までの女性の年齢別出生率（母の年齢別年間出生率÷年齢別女性人口）を合計したもの。一人の女性が一生の間に出産する平均の子どもの数とみなされる。 純移動率：封鎖人口（転出入が一切なく、生存率のみで規定されると仮定した理論上の人口）と実際の人口との差である純移動率を求め、その実際人口の対する比として算出する。

No.	該当箇所	提出意見の概要	市の考え方
13	全体	人口減を前提に計画した実施中の豊中の一般廃棄物処理計画。予想に反して人口増により諸計画に支障が生じている。しかし、ごみ焼却処理施設に余力なし。軌道修正は容易ではない。ならば一般ごみの排出量を削減してもらうしか方法がない。 素案に基本的に賛同するが、表現がなんとも冗長である。概要版は説明抜きではわからない。 ストレートに現状を伝え、市民と協働して解決しようと呼びかける「宣言」にしてほしい! 論文はいらない。市民のハートに届くメッセージにしてほしい。	計画の策定につきましては、策定して終わりではなく、計画の趣旨や計画に基づいて実施する施策を様々な媒体を用いて広報し、周知していきたいと考えています。
14	概要版	非常にわかりやすくまとめられていると思います。	今後も、見やすく分かりやすい表現となるよう努めてまいります。
15	概要版	概要版の「課題の整理」1)と6)は同じ内容ではないでしょうか。	課題の1)と6)の違いですが、「1)ごみ焼却施設で余力を持って処理できる量を上回るごみが搬入」は、「主に豊中市が搬入している可燃ごみの量や人口」の内容を記載しています。 「6)安定した中間処理施設等の運用」では、「豊中市伊丹市クリーンランドや伊丹市との連携、大阪湾広域臨海環境整備センターの埋立処分場」の内容を記載しています。